

「転職もありうる」が半数に迫る

理想の上司、1位：大谷翔平さん、2位：水ト麻美さん

- ◇調査名：「2024年 新入社員意識調査」
- ◇調査時期：3月26日(火)～4月12日(金)
- ◇調査対象：当社が滋賀県内で開催した新入社員研修の受講者
- ◇有効回答数：434人

当社では毎年、3月末から4月にかけて、当社が滋賀県内で開催した新入社員研修の受講者を対象に意識調査を実施しています。今年は434名から有効回答を得ました。

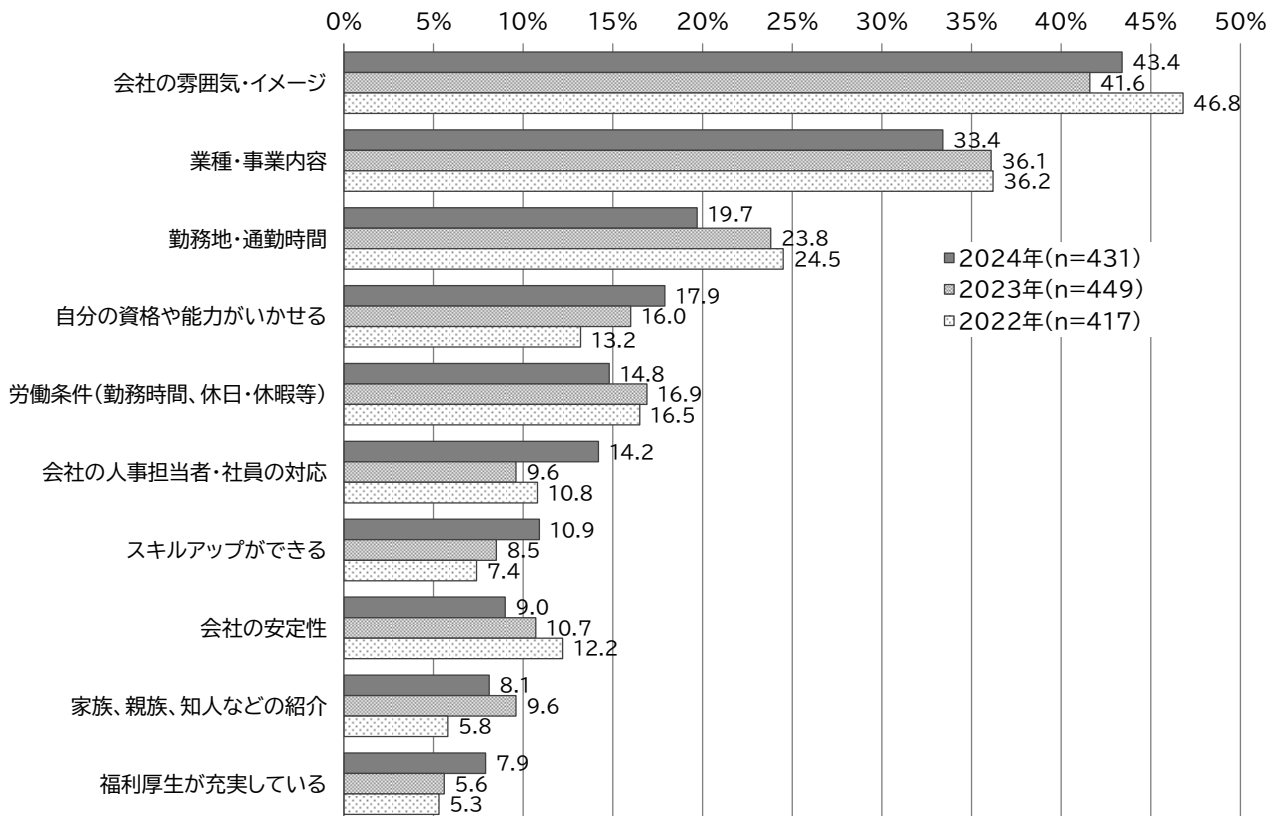
入社動機トップは、「会社の雰囲気・イメージ」（43.4％）でした。また、就職した企業に「定年まで勤めたい」（38.5％）は4割を切り、「転職もありうる」（44.1％）を下回りました。

※なお、過去データとの比較において、2020年調査結果は掲載していない（新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため）。

▶入社動機は「会社の雰囲気・イメージ」が4割超

「入社を決めた主な動機」（複数回答）は、「会社の雰囲気・イメージ」（43.4％）が最も高く、次いで「業種・事業内容」（33.4％）となった。昨年比で最も増加したのは「会社の人事担当者・社員の対応」（+4.6ポイント）で、最も減少したのは「勤務地・通勤時間」（-4.1ポイント）となった。

図表1 入社を決めた主な動機 上位10項目（複数回答）

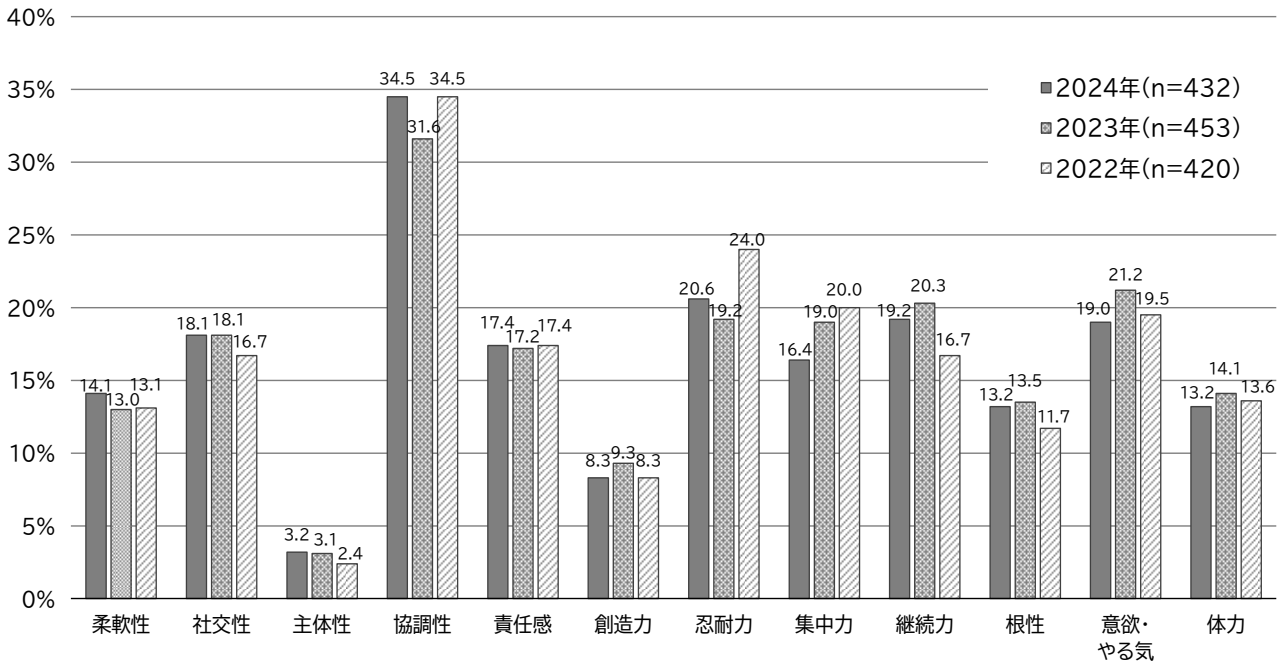


▶自信があるのは「協調性」「忍耐力」、不足しているのは「創造力」「主体性」

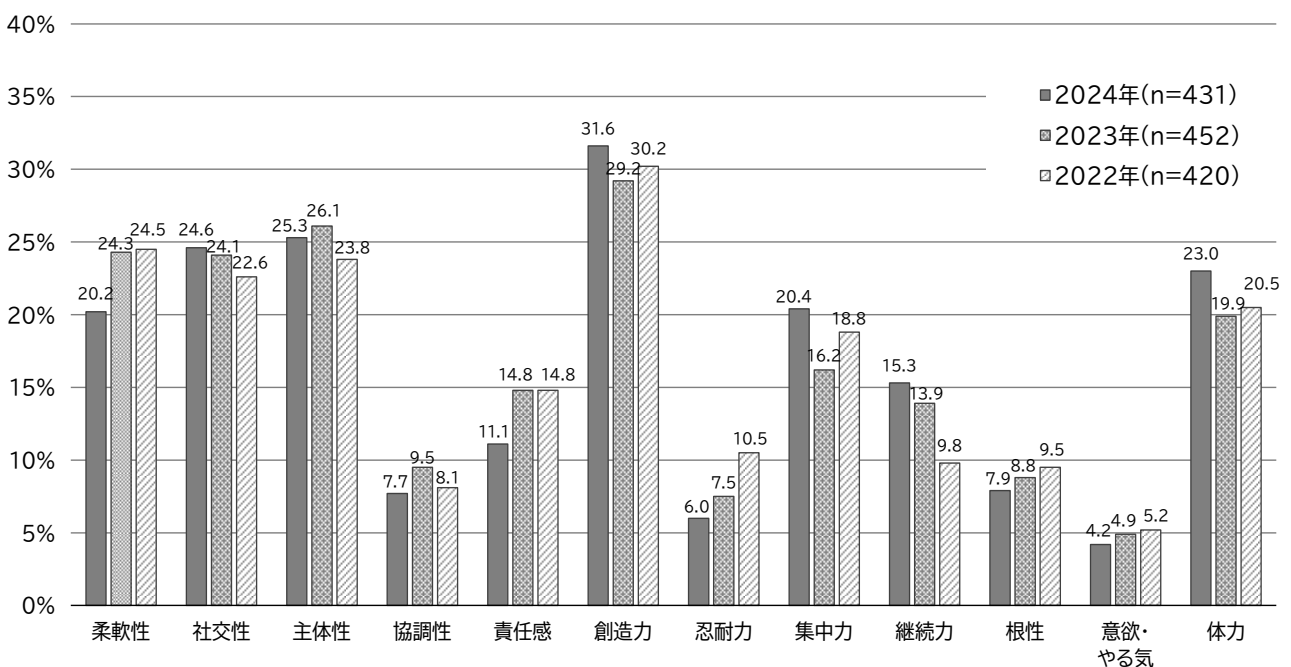
「社会人として『自信が持てる』もの」（複数回答）は、「協調性」（34.5％）が最も高く、次いで「忍耐力」（20.6％）となった。昨年比で最も増加したのは「協調性」（+2.9ポイント）で、最も減少したのは「集中力」（-2.6ポイント）となった。

一方、「社会人として『不足している』もの」（複数回答）は、「創造力」（31.6％）が最も高く、次いで「主体性」（25.3％）となった。昨年比で最も増加したのは「集中力」（+4.2ポイント）で、最も減少したのは「柔軟性」（-4.1ポイント）となった。

図表 2 - 1 社会人として「自信が持てる」もの（複数回答）



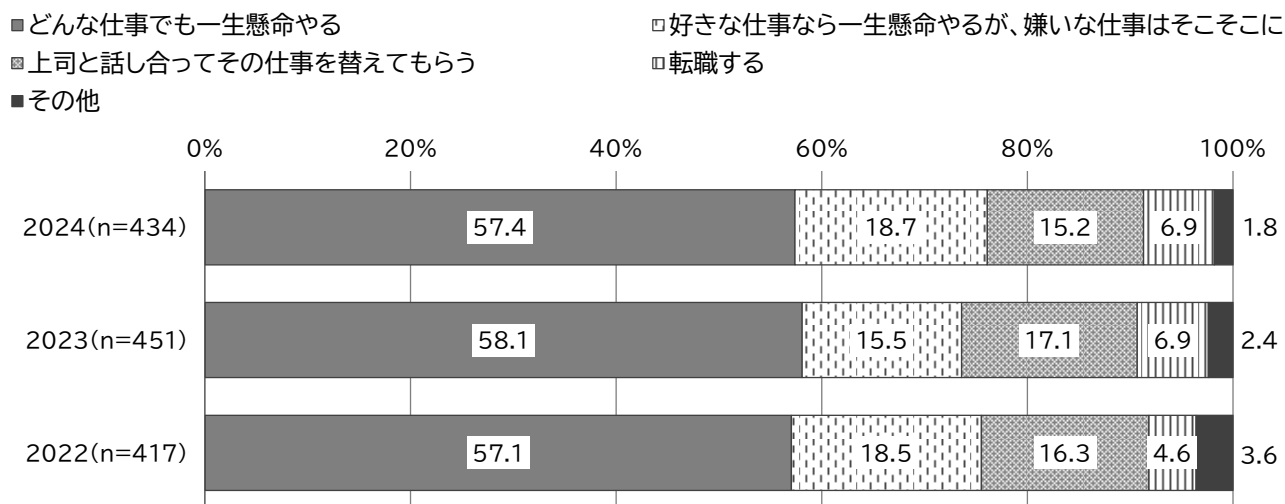
図表 2 - 2 社会人として「不足している」もの（複数回答）



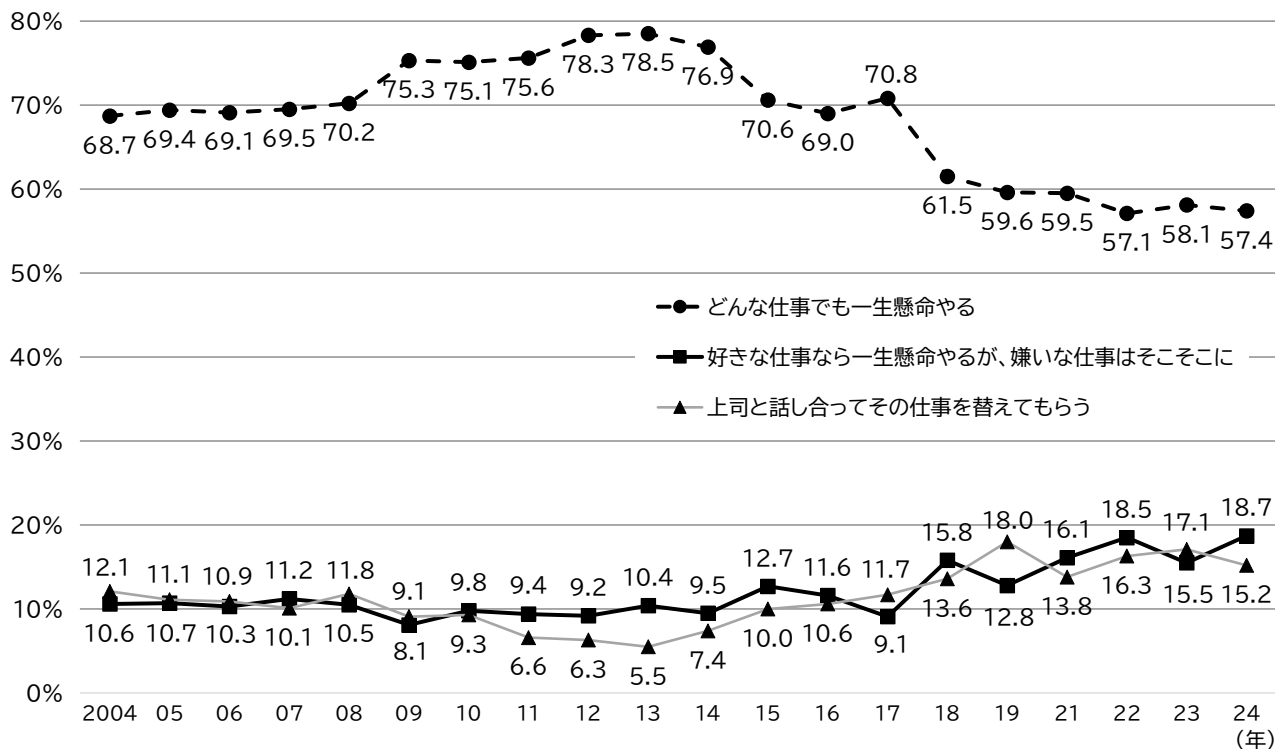
▶ 「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」が過去最高に

「与えられた仕事が自分に合わないと思えるときはどうするか」は、「どんな仕事でも一生懸命やる」（57.4％）が最も高く、次いで、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」（18.7％）、「上司と話し合っその仕事を替えてもらう」（15.2％）となった。過去の推移をみると、「一生懸命やる」は2014年以降減少傾向にある。一方、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」は2004年の調査開始以来、最も高くなった。

図表3-1 仕事が自分に合わないときはどうするか（複数回答）



図表3-2 仕事が自分に合わないときはどうするか [推移]（複数回答）

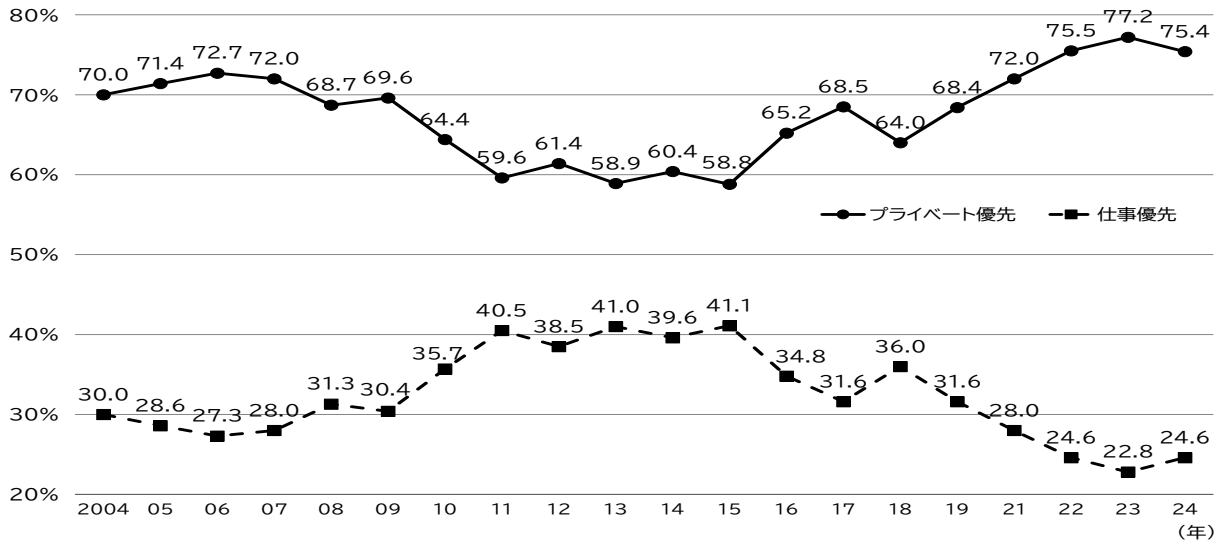


※2020年調査結果は掲載していない（新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため）。

▶ 「プライベート優先」が依然高い傾向

「『仕事』と『プライベート』のどちらを優先した生活を送りたいか」は、「プライベート優先（「どちらかといえば」を含む）」が75.4%、「仕事優先（「どちらかといえば」を含む）」が24.6%となった。5年ぶりに「プライベート優先（「どちらかといえば」を含む）」は減少し、「仕事優先（「どちらかといえば」を含む）」は増加した。

図表4 「仕事」と「プライベート」のどちらを優先するか [推移]



※それぞれ、「仕事優先」と「どちらかといえば仕事優先」の合計、「プライベート優先」と「どちらかといえばプライベート優先」の合計として掲載。

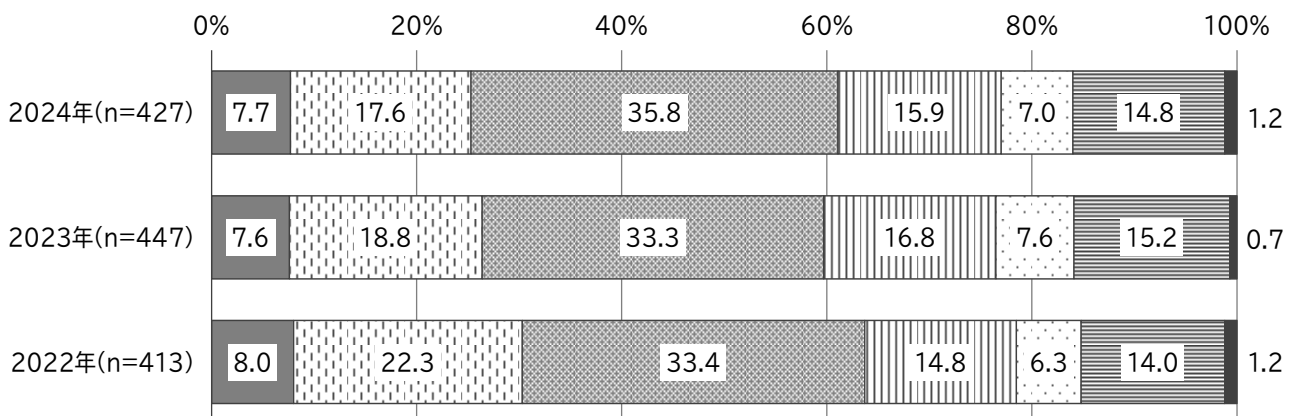
※2020年調査結果は掲載していない（新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため）。

▶ 社会人として歩みたい道は、「管理職にはこだわらない」が3割超

「社会人としてどのような道を進みたいか」は、「いろいろな仕事を経験したいが、管理職にはこだわらない」（35.8%）が最も高く、次いで「いろいろな仕事を経験し、部下を持つような管理職になりたい」（17.6%）、「1つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」（15.9%）となった。「管理職になりたい」は減少傾向にある。

図表5 社会人としてどのような道を進みたいか

- 社長や役員になり、企業経営に携わりたい
- いろいろな仕事を経験したいが、管理職にはこだわらない
- 管理職にも専門職にもならず、一般社員でよい
- その他
- いろいろな仕事を経験し、部下を持つような管理職になりたい
- 1つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい
- 特に考えていない



(株)しがぎん経済文化センター「2024年 新入社員意識調査」結果

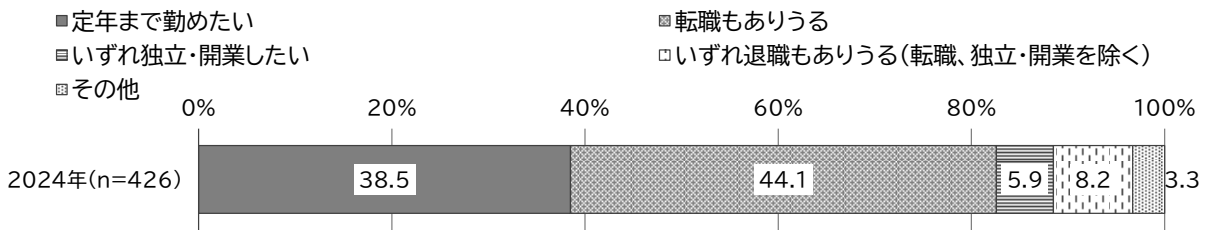
▶ 「転職もありうる」が半数に迫る

入社する会社に「定年まで勤めたいか」は、「転職もありうる」（44.1％）が最も高く、半数に迫る結果となった。次いで高いのは、「定年まで勤めたい」（38.5％）となった。

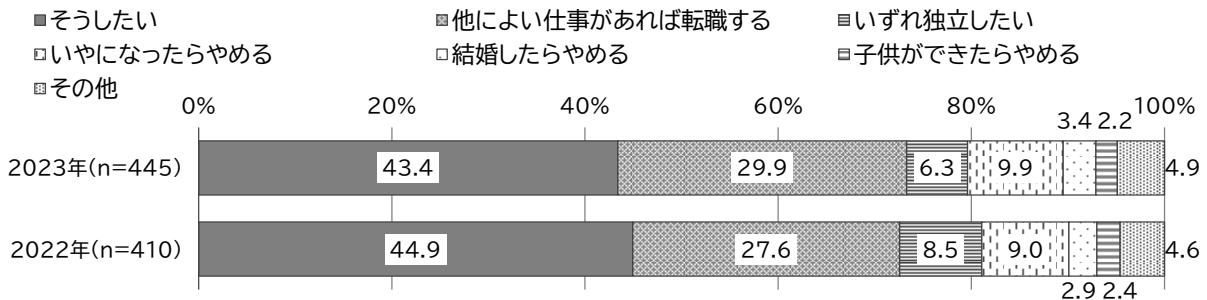
今回調査から選択肢の内容を一部変更したため、単純比較はできないものの、「定年まで勤めたい」が2005年以来、18年ぶりに4割を下回った。また「転職もありうる」は23年の「他によい仕事があれば転職する」と比べると、14.2ポイント増加し、「定年まで勤めたい」を上回った。

「転職もありうる」が大幅増加した要因として、新入社員の意識の変化に加えて、選択肢の文言が昨年に比べ、よりシンプルになったことで選びやすくなった可能性も考えられる。

図表 6 - 1 定年まで勤めたいか

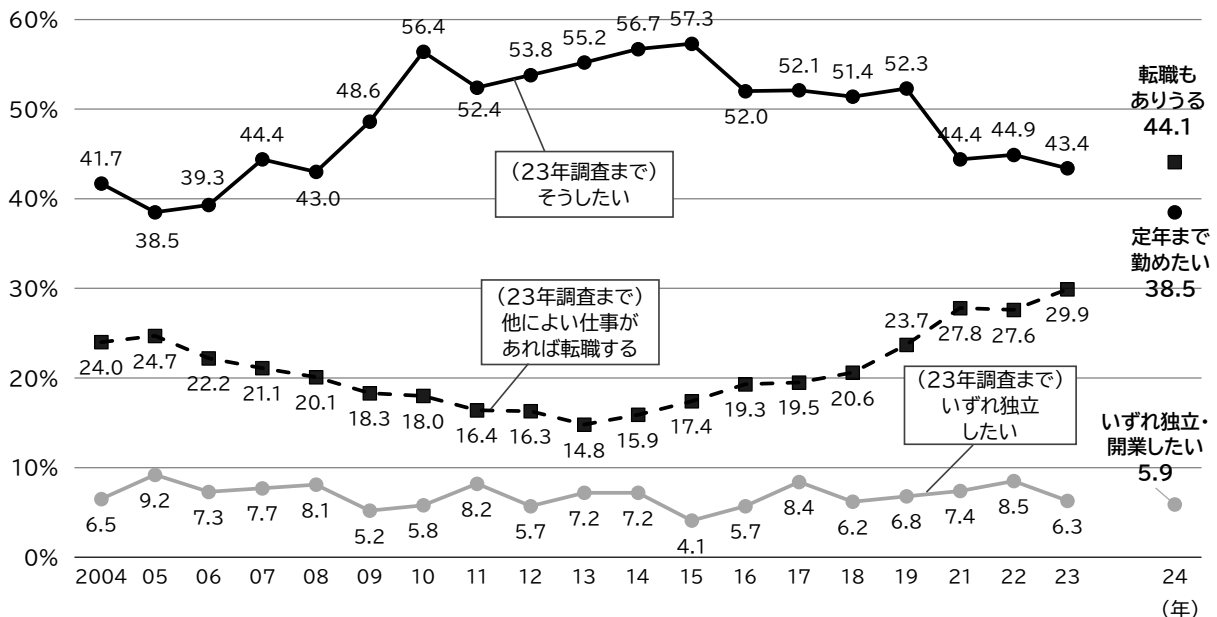


【参考】表 6 - 2 定年まで勤めたいか（22年、23年結果）



※今回の24年調査から選択肢を一部変更したため、参考として掲載

【参考】図表 6 - 3 定年まで勤めたいか [推移]



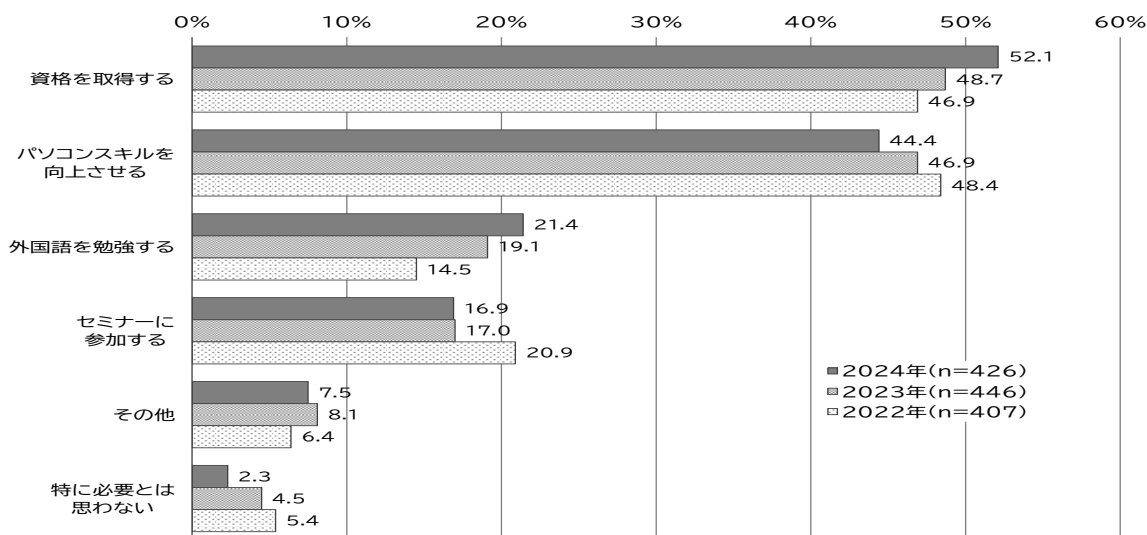
※今回の24年調査から選択肢を一部変更。23年まで「そうしたい」→「定年まで勤めたい」、23年まで「他によい仕事があれば転職する」→「転職もありうる」、23年まで「いずれ独立したい」→「いずれ独立・開業したい」に変更。

▶技能・能力アップに必要な勉強、「資格を取得する」が初めて5割超

「自分自身の技能や能力アップのために、どのような勉強が必要か」（複数回答）は、「資格を取得する」（52.1%）が最も高く、2011年の調査開始以来、初めて5割超となった。また「特に必要とは思わない」（2.3%）は減少傾向にある。

「資格を取得する」では、建築士（16人）や施工管理技士（11人）、簿記（6人）などが多かった。また「外国語を勉強する」（21.4%）の割合も増加傾向にあり、「英語」が73人と突出して多く、次いで「中国語」8人、「韓国語」と「フランス語」がそれぞれ2人となった。

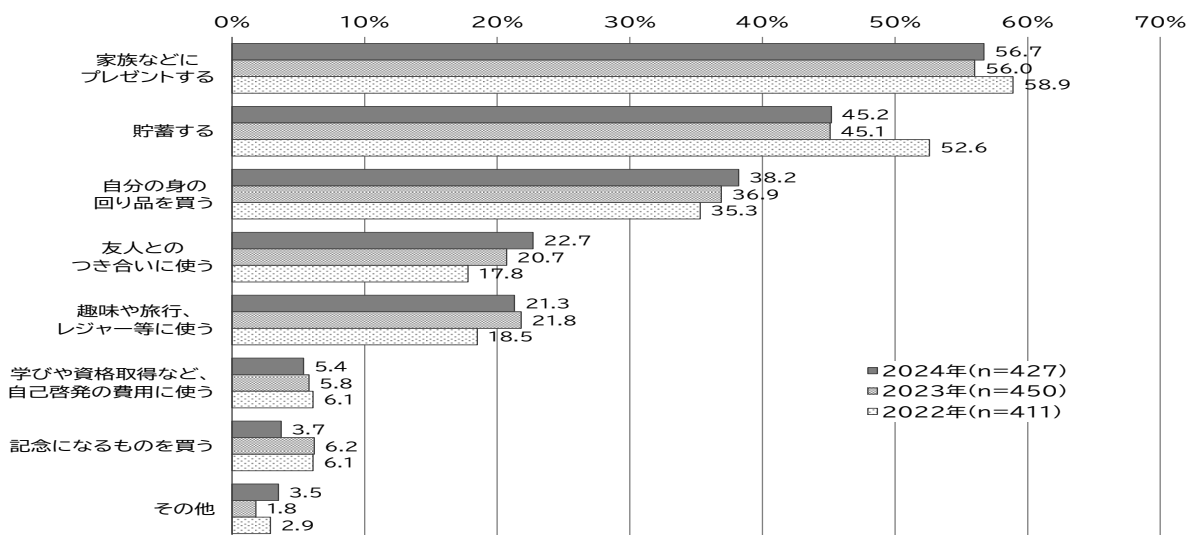
図表7 技能や能力アップのために必要だと思う勉強（複数回答）



▶初めての給料は、「家族などにプレゼント」「貯蓄」

「初めての給料の使いみち」（複数回答）は、「家族などにプレゼントする」（56.7%）が最も高く、次いで「貯蓄する」（45.2%）、「自分の身の回り品を買う」（38.2%）となった。「自分の身の回り品を買う」「友人とのつき合いに使う」は増加傾向だが、「学びや資格取得など、自己啓発の費用に使う」は割合が低く、減少傾向にある。

図表8 初めての給料の使いみち（複数回答）



▶理想の上司、1位：大谷翔平さん、2位：水ト麻美さん

「理想とする上司像を有名人に例えると」（フリーアンサー）に対して、有名人1人の名前を回答してもらったところ、1位はプロ野球選手の大谷翔平さん（回答数61人）、2位はアナウンサーの水ト麻美さん（同13人）となった。大谷翔平さんは、2位以下に大差をつけて、2年連続の1位となった。

選んだ理由を最大2つ選択してもらったところ、大谷翔平さんは「頼りになりそう」（同24人）が最も多く、次いで「目標ややり方をはっきり示してくれそう」（同19人）となった。水ト麻美さんは「優しく丁寧に指導してもらえそう」（同10人）、「面倒見がよく、何でも相談できそう」（同9人）となった。

図表9 理想とする上司像 上位10位（2024年）

	前年 順位	氏名	回答数(人)
1	(1)	大谷翔平	61
2	(4)	水ト麻美	13
3	(2)	明石家さんま	9
	(3)	鈴木一郎(イチロー)	
5	—	内村光良	8
6	(5)	アンミカ	7
	(8)	天海祐希	
	—	松岡修造	
9	—	マツコ・デラックス	5
10	—	フリーザ	4

※敬称略

※有名人1名をフリーアンサーで回答

※同数得票の場合は同じ順位

以上

本調査結果についてのお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター
産業・市場調査部 鴨田 (077-526-0005)